

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第45回（令和元年度第1回）理事会議事録

日 時：令和元年5月31日（金） 13:00～16:40

場 所：AP品川 10階 Dルーム
東京都港区高輪3-25-23 京急第2ビル

出席者：細井 創（理事長）
真部 淳（副理事長）
足立壯一、井上 健、今泉益栄、大植孝治、小野 滋、上條岳彦、木下義晶、
滝田順子、松本公一、盛武 浩、米田光宏（以上理事）
菊田 敦（監事・第62回学術集会会長）、越永従道（監事）
檜山英三（第61回学術集会会長）

欠席者：天野功二、上別府圭子、康 勝好、副島俊典、西川 亮（以上理事）、井上雅美（第63回学術集会会長）

議長：細井理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は18名中13名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を充たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

松本庶務・財務委員長より、資料をもとに、入会申請者35名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 2年以上会費滞納者の件（松本庶務・財務委員長）

松本庶務・財務委員長より、資料をもとに、2年以上会費滞納者21名が示され、会則第10条により、当該21名は会員資格を喪失する旨の説明があり、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 平成30年度事業報告（案）の件

細井理事長より、平成30年度事業報告（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

4. 令和元年度事業計画（案）の件

細井理事長より、令和元年度事業計画（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、一部

修正の上、全員異議なく承認された。

5. 平成 30 年度決算書の件

松本庶務・財務委員長より、資料をもとに、平成 30 年度決算書類が示され、議場にその承認が求められたところ、一部軽微な文言の修正を加えた上で、全員異議なく承認された。

また、細井第 60 回学術集会会長より、資料をもとに学術集会決算書について説明がなされ、了承された。

なお、ホームページの管理・維持について、サイトの全面リニューアルや今後の管理体制の一新も視野に入れて、社会・広報委員会で経常費用を節減すべく検討を進めていくこととなった。

6. 監査報告

越永監事より、平成 30 年度決算書類を監査した結果、適正に処理されていた旨報告があった。

なお、安定した運営のため、現在約 3,300 円の繰越金の額を 5,000 万円程度まで増やす努力が必要であること、アジア交流奨学日本基金積立預金の残額 20 万円余りの措置を検討する必要があることが指摘された。この件については、細井理事長より、基金設立に尽力された別府先生にその用途を相談することとなった。

7. 令和元年度予算書（案）の件

松本庶務・財務委員長より、資料をもとに、令和元年度予算書（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、一部修正の上、全員異議なく承認された。

なお、今秋の消費税増税により、今後一層収支状況が厳しくなること、また、2019 年度は PBC の購読契約の更新時期なので、WILEY 社との交渉によってはさらに支出が増える可能性があることがあわせて報告された。また、米田専門医制度委員長より、今後の専門医認定機構等の動向によっては、認定料収入が学会収入とならない可能性がある旨説明があった。

審議の結果、年会費の値上げも視野に入れ、財政再建策について検討を始めることとなった。

8. 評議員申請者について

井上評議員等資格審査委員長より、資料をもとに、本年度の評議員申請者 14 名について、委員会審査がなされ、全員が資格を満たしていると判定したとの報告があり、議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

なお、「評議員申請資格に関する論文業績の点数化基準」について、所定点数は「総合 10 点」であるが、小児外科領域のみ「総合 5 点」とされていることに一部委員から疑問が呈された旨報告があった。

審議の結果、次回より、所定点数は「総合 5 点」として、小児科領域のみ「総合 10 点」と改正することで、全員異議なく承認された。

9. 各種資格認定について

滝田専門医制度委員長より、資料をもとに、以下の審査結果が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

- ・小児がん認定外科医資格更新者 6名（更新辞退者9名）
- ・小児血液・がん専門医研修施設資格更新施設 3施設
- ・研修集会資格更新集会 1集会
- ・小児がん認定外科医新規認定者 11名
- ・研修施設新規認定施設 1施設
- ・研修集会新規認定施設 申請なし
- ・小児血液・がんみなし指導医新規認定の件 申請なし

続いて、以下の委員交代が提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

井上雅美委員（大阪府立母子保健総合医療センターは委員を退任し、オブザーバーに就任
山本将平評議員（昭和大学藤が丘病院）が委員就任

10. PCR-MRD 検査施設学会承認の更新について

今泉保険診療委員長より、本会認定の検査施設（保険医療機関）として更新の申請があった 2 施設（国立病院機構名古屋医療センター、愛知医科大学）につき、委員会で適格と判定し、続いて理事会において持ち回りの迅速審議を行った結果、昨日承認されたことが報告された。あわせて、認定日としては遡って 4 月 1 日の認定とすることが説明され、全員異議なく承認された。

なお、本会認定の衛生検査所が検査開始を実施するには、検査施設（保険医療機関）の学会更新認定が必要であることを勘案すると 4 月 1 日以前の認定が必要なことが説明され、今後は審査スケジュールを前倒しして行うこととなった。

11. 再発及び難治性急性骨髄性白血病に対する FLAG 療法の使用実態調査について

今泉保険診療委員長より、調査の背景および目的につき説明があり、議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

12. グルカルピダーゼ要望書について

今泉保険診療委員長より、種々の状況から、グルカルピダーゼの開発促進に関して学会として厚生労働省に要望することが適切と考えているとの提案があり、質疑応答を経て、議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

なお、要望には他学会・団体等との連携が重要との意見が述べられ、可能性があれば連名での要望書提出も検討していくこととなった。

13. 海外留学に伴う助成制度について

細井理事長より、がんの子どもを守る会から医療関係者の海外留学に伴う助成制度について、本会に候補者の推薦依頼があったことが報告された。

審議の結果、教育・研修委員会が本件の対応に当たることとし、まずは募集要項の不明点について先方に確認すること、その後、理事会審議を経て公募等の手続を進めることとなった。

14. 教育セミナー受講者の件

大植教育・研修委員長より、非会員の看護師が社員総会時の教育セミナー受講を希望していることが報告され、委員会としては医療従事者であれば非会員も可と判断しているとの報告があった。

審議の結果、非会員は事前登録制として受講を許可することで、全員異議なく承認された。

15. 小児難治性 ITP 治療ガイドの HP 掲載について

小野診療ガイドライン委員長より、既に学会誌に掲載された本会血小板委員会による「小児難治性 ITP 治療ガイド」について、一般公開するため学会ホームページに掲載したいとの要望が寄せられていることが報告された。

審議の結果、本ガイドはいわゆるガイドラインではなく委員会報告である旨但し書きを付与することを条件に、患者会等他組織のホームページに掲載することを許可することで、全員異議なく承認された。

16. 造血細胞移植委員会 一元管理委員会委員の委嘱について

足立疾患委員長より、日本造血細胞移植データセンター造血細胞移植登録一元管理委員会の一戸辰夫委員長より、本会の橋井造血細胞移植委員長あてに、本会造血細胞委員会委員の任期を満了した森本 哲委員の一元管理委員会委員重任の依頼があったことが報告された。

事業の継続性や迅速な対応が求められている状況などを勘案し、本会として重任を許可することで、全員異議なく承認された。

17. 多遺伝子解析検査を受ける際の IC 文書について

真部遺伝性腫瘍委員会より、国立がん研究センター中央病院の熊本先生から、小児がん患者が多遺伝子解析検査を受ける際に使用する IC 文書案のレビュー依頼があり、理事会持ち回り審議を行って得られた意見をフィードバックしたいとの報告があり、議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

18. CLIC 予算・決算等について

大植教育・研修委員長より、資料をもとに CLIC 予算・決算および共催の日本緩和医療学会との覚書（案）が示され、議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

19. 厚生労働省委託事業の事務経費について

事務局より、各年度の各種事務経費の計算方法および事務の一部を担当する学会支援機構内での業務運用方法等につき、確認のため改めて説明がなされ了承された。

事業の性質上、厳格かつ適切な運用が求められるため、今後、さらに分かりやすく明確な形での事業遂行および会計処理について留意していくこととなった。

20. 小児がん研究プレジジョンメディシン開発研究への要望書について

細井理事長より、小児がんのゲノム解析、小児がんの医療提供体制の集約化・ネットワーク化等を内容としたプロジェクトについて、JCCG の提案で厚生労働大臣あての要望書を作成中であること、提出にあたって日本医師会、日本医学会などとともに、本会にも要望書提出団体として加わってほし

いと要望が寄せられていることが資料をもとに説明された。

審議の結果、さらに検討が必要な部分もあるものの、総論的には本会としても積極的に推進していくべきとの意見に集約された。続いて、議場に承認が求められたところ、要望書を提出することで全員異議なく承認された。

Ⅲ. 報告事項

1. 庶務報告

松本庶務・財務委員長より、現在の会員状況について、資料をもとに報告がなされた。

2. 理事長報告

細井理事長より、各種協賛、後援や他学会・団体への対応等につき、資料をもとに報告がなされた。

3. 研究審査委員会報告

上條研究審査副委員長より、資料をもとに、研究審査状況が報告された。

4. 診療ガイドライン委員会

小野診療ガイドライン委員長より、2月の理事会で審議された「領域横断的がん取扱い規約」の修正版について、改めて持ち回り審議により理事会承認を得て、日本癌治療学会に提出した旨報告があった。

5. 学術・調査委員会報告

木下学術・調査委員長より、以下の報告があった。

1) 疾患小委員会委員選考の件

造血細胞移植委員会：加藤 格、日野もえ子、安井 昌博

再生不良性貧血・MDS委員会：石村 匡崇、本田 裕子

止血・血栓委員会：小倉 妙美、野上 恵嗣、新小田雄一、金田 眞

白血病・リンパ腫委員会：梅田 雄嗣、松村 梨紗、更科 岳大

組織球症委員会：八角 高裕

2) 疾患登録集計について

(1) 2014～2016年症例をvol55(5)へ掲載した。

(2) 2017年症例は原稿取りまとめ中である。

(3) 2018年～ 新登録システムについて、アナウンス方法を再検討する。

3) 鈴木班（がん対策推進総合研究事業「小児・AYA世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化：研究代表者 鈴木直」）からの調査依頼があり、対応中である。

4) 平田班（「全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究班」）に参画。

6. 専門医制度委員会報告

滝田専門医制度委員長より、施設現況調査の報告があり、指導医の不足が深刻な状況であること、小児血液がん専門医 1 名以下の施設が約半数を占めていることなど現状が報告された。

また、米田専門医制度副委員長より、研修施設に必須とされる認定外科医の不足が深刻であり、移行措置が終わる前に、条件を緩和するなど何らかの措置が必要との報告があった。

7. 保険診療委員会

今泉保険診療委員長より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

1)2020 年度診療保険改訂に向けた内保連要望について以下を行っている。

(1) FDG-PET 検査の DPC 包括範囲からの除外（本学会、日本核医学学会）

(2) 遺伝学的検査拡大（難病等）（日本人類遺伝学会、内保連小児関連委員会）

(3) 特定薬剤治療管理料対象薬としてブスルファン注射薬の追加（日本造血細胞移植学会、本学会）

(4) 遺伝性腫瘍の遺伝学的検査（日本人類遺伝学会、内保連小児関連委員会）

2)「医療上必要性が高い未承認薬・適応外薬検討会議」への要望として以下を行っている。

(1) テモゾロミドの再発又は難治性のユーイング肉腫への適応拡大：JCCG 参加施設への実態調査を踏まえて公知申請し、2019 年 2 月適応拡大が承認。

(2) 小児造血細胞移植患者における静注用ブスルファンの 1 日 1 回法：JCCG 施設二次調査の使用実態（6 施設 35 例）を解析し、公知申請の準備。

(3) 再発・難治性急性骨髄性白血病に対する FLAG 療法の使用実態調査：本学会の調査研究として JCCG 施設に協力を求め、公知申請に向けた準備。

(4) 神経芽腫に対するイソトレチノイン (isotretinoin, 13-cis-retinoic acid)：初回申請は要望区分の違いで公知申請の対象外と判定されたため、改めて「未承認薬速実用化スキーム対象品目」として再申請。

3) その他

(1) 小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究（日本小児科学会）に参加。

8. 長期フォローアップ・移行期医療委員会

細井委員長および檜山前委員長より、平成 30 年度の事業実施状況の報告があった。あわせて平成 30 年度決算、令和元年度予算および令和元年度事業計画につき報告がなされた。

9. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会

檜山会長より、タイムテーブルおよびプログラムが示され、現在の準備状況について詳細な報告がなされ、もしタイムテーブル上で不都合がある場合には、申し出てほしい旨の要望が述べられた。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。